

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		どんな状態になっても自分でトイレに行きたい、自分で食べたいこと等を尊重した自立支援に努めている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域交流室を地域のサークル活動に提供している。時には講演や催し物の呼びかけに応じて参加している。自治会加入については、地域の高齢化で自治会そのものが機能していないとの事。しかし、法人建設の際は、地域からの要望が大きかったこともあり、ほとんど友好的な関係にある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	協力病院と地域の「健康祭り」に「認知症相談コーナー」を設け、相談を受けている。近隣の中学生の職場体験を受け入れ、未来の介護職の育成を図っている。施設入所希望者が見学で来所された際悩みを十分傾聴し、ともに改善策を話し合っている。		将来的には認知症サポートキャラバンメイト養成講座ができるように努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員が自己評価に取り組んでいる。自己評価での意見は、十分尊重し、会議で意見交換を行い改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、グループホームでの活動状況や各ユニットごとに入居者の近況を報告し認知症を理解していただけるように努めている。ひまわりでの出来事(おっとはっと)を率直に報告し、意見交換を行っている。職員会議に議論の経過を報告し、サービスの質の向上につなげるよう努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あんしんケアセンターの職員が運営推進会議に参加している。生活保護関連など連絡を密に行なっている。千葉市主催の各種研修に職員を派遣している。千葉市介護相談員を受入れ、助言や相談を聞き、日ごろのケアのサービスの質の向上につなげている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	すでに利用している入居者がおり、月1回は面会してくれるよう緊密に連絡を取り合っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	千葉県や関連の研修に積極的に参加している。年1回全職員参加の学習会を行なっている。日頃のケアのありかたについて振り返り意見交換を行うよう努めている。		緊張感を持って相互に意見交換を図って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>繰り返し訪問を重ね、説明をした。看取りや医療関係についても丁寧に説明し、同意を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員に何でも言える環境作りに努め、苦情があった場合はすぐ対応し、第3者委員会に報告している。バス旅行の要望や行き先など思いを話し、出された意見は参考にして決めている。介護相談員が訪問し、相談しやすい環境に努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ひまわりだよりでを毎月お知らせしている。家族の面会時や定期受診時、運営推進会議等で近況報告や活動等を伝えている。行事への参加を呼びかけ、日頃の様子を共有できるように努めている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議では、それぞれが問題を出し合い、家族同士が相互に意見や助言を気軽に話し参考にする。又、介護相談員を紹介し、相談の窓口になっていることを伝えている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常勤・非常勤会議、育成面接で意見や提案を聞き反映できるよう努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の病態の変化や行事に合わせて、柔軟な勤務時間を組んだり調整している。管理者は、職員の希望休暇を最大限配慮し、臨機応変に対応している。</p>	<p>重症化傾向にある現在、配置基準より多い職員配置をしていても困難な状況がある。より質の高いケアの為に人員が欲しい。この秋には、育児休業明けの職員が復職し、強力な戦力になっている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>計画作成者の異動や出産・育児休業時、その他職員退職時には、入居者から花束を贈り労をねぎらい、入居者から感謝の気持ちを述べる場面を工夫している。退職した職員が気軽に遊びに来ておしゃべりできる環境作りに努めている。</p>	<p>24時間職場でしかも出入りの多い職員同士が少しでも理解できるようにと主任が職場内ニュースを発行し、交流を図っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員教育計画を検討中だが、常勤者には「認知症の体験研修」を行っている。非常勤には、教育相談担当を置き、課題や疑問などを現場で気軽に助言を行っている。</p>	<p>勤務の都合で、教育相談担当者となかなか組めないなどの課題がある。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>千葉県高齢者認知症GH連絡会に加入し、研修や交流会議に参加している。千葉県介護相談員意見交換会や近隣のGHを訪問し、それぞれが抱えている問題や課題などの意見交換を行っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>育成面接で希望や意見を聞く機会を設けている。職員の希望でユニットの固定化をしていない。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人関連・外部の研修に積極的に参加している。重度化する入居者のケアの内容について充分意見交換し、入居者の状態についての実践を評価し、ステップアップができるように努めている。要望や悩みをできるだけ傾聴し、実績を評価し意欲が持てるように努めている。</p>	
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>今年度は対象者はいない。</p>	<p>家族との面接を増やし、相談や思いを傾聴しホームでのケアを検討していきたい。本人とのコミュニケーションに努める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>今年度は対象者はいない。</p>	<p>自宅訪問を重ね、本人の週間、家族の対応を把握していきたい。キーパーソンを中心に面接、連絡を通じ、不安の解消に努める。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対象者がいない。		本人に関わる各事業所と連携をとり情報収集に努めたい。家族・本人と面接し、より良いサービスプランを提案していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			ご家族の方やお孫さんなどにいつでも気軽に面会に来られ、ゆったり過ごしていただくようにする。他の入居者と自然に馴染むよう支援していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や食事作りの時、一緒にやりながら学ぶ事が多く、感謝の気持ちを伝えている事が多い。夜勤の時など職員に「大変ね。速く寝たら」と気遣う言葉をかけてくる入居者が多い。入渠者同士の心無い言葉に、心の痛みを分かち合い、支えあっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来所時(面会・受診等)に病態を説明し、些細な事でも今後のケアを相談するなど信頼関係を築きつつ行っている。カンファレンスで不十分なケアに対しては、ご家族に率直に支援の協力をお願いしている。また、来所時には他入居者と気軽にしゃべりしたり、花を持ってきてくれるなど協力していただいている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時には、普段と違う表情であることを家族に伝え、行事の参加の呼びかけたりして一緒に過ごす時間を支援している。自由に外出できるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から通っている美容院へいけるよう支援している。葬儀への参加やお盆・お彼岸の時の墓参りを支援している。法事やお中元・お歳暮・お祝いや誕生日のプレゼントのお礼の電話かけなどを支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常の中で皆の分も洗濯物を干したりたたんだりしている。他入居者が体調不調時、心配して職員に知らせるなど気遣っている。入院者には、皆でお見舞いに行っている。仲の良い入居者同士が、穏やかにおしゃべりが継続できるように見守り支援している。		言葉で伝えられない入渠者でも相手に伝わるよう職員が間に入って支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	3年程対象者がいない。		サービスが終了しても継続的なかわりを持つよう努める。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームで暮らす疑問や不安に答え、できるだけ希望に添えるように努めている。(散歩・買い物・入浴時間)、意思を表出できない入居者については、症状や行動パターンを観察し思いが実現できるよう支援に努める。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に、雑談を通して得た情報など生活記録などで把握している。又、なかなか把握できない入居者については、プライバシーに配慮しつつ近所の方から生活経歴を伺ったりする時もある。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	睡眠・水分の確保・食事量・排泄・入浴・活動内容など個々に記録し、朝・昼・夜勤に入居者ごとに申し送りしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにカンファを開くことに努めている。生活記録をもとに日々の実践と気づき等を意見交換し、介護計画を作成している。又、本人や家族の思いもとりいれている。体調面では、看護師もカンファに参加している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に合わせて臨機応変な介護計画作成に努めている。		迅速な作成ができるよう努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画作成に沿った記録を行い、評価しそのつど計画の見直しに努めている。又、プランにこだわらずエピソードも記録し、心の状態の把握も共有して実践に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所のボランティア(ギター・大正お琴・お化粧・フラダンス・編み物)毎週1回から毎月、3ヶ月ごとなど工夫して来所され、日常生活に活気を入れて入居者を支援している。市の保育園児も年2回訪問して楽しませる支援をしている。		消防署の協力・連携の下にできることを工夫して行きたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問リハビリ・マッサージ・からたち生活相談員の活用・有償ボランティアによる友の会足すけ合いによる通院援助を活用している。近所の銭湯を利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を開き、地域包括支援センターの職員が会議に参加し、助言と他の情報をを受けている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が近くにある。ほとんどの入居者が受診している。受診時に個別の連絡ノートを持参し、Drが本人の状態をわかるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医を紹介し受診を進め、その結果を協力病院と連携して定期的に受診を行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ひまわり看護師と医療連携を行っている訪問看護ステーションとで毎週1回健康状態を申し送り、24時間健康管理を行っている。救急時には、いつでも相談でき助言を受けたり、訪問して状態観察するなどきめ細かい支援があり、入居者・職員は安心できる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院・家族・職員がカンファを行い、病態や退院後の生活について確認できている。退院にあたっては、本人が混乱しないようホームへの外出リハビリを病院と連携して行っている。		病院側が職員に処置方法などに教示し、支援している。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と同意書を交わしている。		本人・家族の生前意思を日ごろから話し合っていくよう努めていく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後も職員間でターミナルケアの学習を継続していく。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	話し合いを重ね、ホームの中では住み替えしない方針である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報、事務所に保管にしてある。取り扱いについては、全職員に徹底している。特に排泄時や入浴時の支援の際は、本人の誇りを傷つけないよう配慮し、声かけ誘導している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常生活のなかで自由メニュー日に食べたいものや味付け、衣装選び、化粧の口紅の色、行事の参加などで希望を表出する場面を工夫している。日常の会話や日々の関わりの中で本人の思いを受け止め、可能な限り実現できるよう支援している。意思表示が十分できない入居者には、表情や動作で理解することに努め、支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ひとりひとりの気分、体調に合わせた過ごし方を支援している。散歩や本人の日用品の買い物などの希望を可能な限り支援している。疲労や病状など表出できない入居者には、体調を観察しつつ「普通」の生活を支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理容や馴染みの美容院に家族または職員が付き添って出かけている。夏祭りの時は、浴衣を着るのを見守り、必要な時はお手伝いしている。希望者にはお化粧の支援を行っている。化粧ボランティアが毎月訪問し、鏡を見ながら行うのを見守り時には支援している。毎朝着替えの時は、職員と相談し季節や気温の変化に合わせた衣類の調整、整容の見</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>好きな物を食べる自由メニュー日を一日おきに行っている。旬のものや新鮮な食材を目で楽しむ場面を工夫し、料理をする意欲につなげている。料理をしながら調理の仕方をほめあい、臭いや音をおしゃべりしながら共同生活のよさを楽しんでいる。台所の調理人が間に合っている時は、洗いものをしたり拭いたり自分のできることを積極的にやってくれる事</p>	<p>食事の時は、昔懐かしい歌謡曲などのCDを流し、穏やかに食事ができるよう支援している。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>好みのもは、体調に注意しつつ支援している。お茶類(煎茶・ほうじ茶・玄米茶)・コーヒー・紅茶・ココア・ジュース類などを用意し、好きな物を選んで飲めるよう支援している。希望された時は、夜間・早朝に関わらずいつでも支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	意思を表出できない入居者には、できるだけトイレで排泄できるよう時間や習慣を記録し、全職員が共有して声かけし誘導している。失敗しても本人が傷つかないように清潔保持に努め、支援している。夜間でもトイレに行きたい時は、転倒に注意し誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望時に入浴できるよう可能な限り支援している。入浴に消極的な入居者には皮膚や身体の清潔に配慮し、声かけを工夫して定期的に(3日に1回)入浴できるよう支援している。手足に冷感がある場合は、可能な限り足浴を支援している。		身体力が落ちて体調の状態を表出できない入居者は、午前中の暖かい時間帯に入浴できるよう支援している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎朝、夜間の睡眠状況を記録するとともに申し送りを行っている。意思を表出できない入居者には、表情や顔色、体調を観察し、就寝や休息できるよう支援している。状況に応じて食後の休息を促している。その際、空調の調節をこまめに行い安心して休めるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理・縫い物・簡単な手作業・など得意な分野で力を発揮し、役割を担っている。近所のボランティアの協力を得て、編み物・フラダンス・ギターなどの趣味を楽しんでいる。また、地域のふれあい喫茶・健康祭りの外出、や銭湯など個別に外出をし、喫茶店や外食などを楽しんでいる。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布をしまい忘れる入居の方には、さり気なく事務所預かりとしている。外出や外食時、日用品の不足の際は、職員付き添いで買い物にでかけ、財布を本人に手渡し、支払いできるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	美容院や買い物、散歩など希望時に可能な限り支援している。一人ひとりにあった外出を行い、道端や他家の庭花を楽しめる支援を行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力を得ながら、職員の勤務を調整し、年1回バスハイクを行っている。身内のいない入居者には、お彼岸・お盆などの時期にお墓参りの支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に家族・親戚に電話をしている。お祝いのプレゼントが届いた時は、電話をかけることを支援している。返信や年賀はがきを書くなどの支援に努めている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者には、職員・入居者が気軽に挨拶を交わし、居心地のよい雰囲気を作っている。居室にお茶を出し、ゆったりと過ごせるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回学習会を行っている。マニュアルがある。原則として「拘束しないケアを」を職員は周知している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・窓は、一般の家庭と同じように日中は鍵をかけず、夜は、防犯・安全のために施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	死角になるところや職員間で入居者の所在確認などお互いに連携している。忙しい時間帯の記録や申し送り時は、食堂で見守りつつ行っている。やむをえない場合は、ナースコールや離床センサーを活用して安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤、包丁・はさみ(台所用)類は、調理が終了毎に片付けて管理している。裁縫道具は、事務室で管理している。塗り薬は、個人でできる人は居室で、そのほかの塗り薬や点眼薬・服薬は、一括事務所で管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「おっとはっと報告書」をより詳しい書式に見直して充実させている。再発防止や対応策を職員会議で検討している。結果を共有できるよう申し送り等で全職員が共有している。火災等ではマニュアルがある。ビデオや年3回ほど訓練も行っている。		防火管理講習を受講しているので、職員研修の充実に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時のマニュアルがある。		消防署と連携して研修の充実に努めていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。避難方法のマニュアルがある。訓練の際、ご近所にも協力の働きかけを行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	運営推進会議などで、本人の尊厳を尊重する生活支援はリスクを伴う事を説明し、理解を求めている。又、入居者に変化があった場合は、些細な事でも報告し、教諭できるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	皮膚の乾燥やアレルギーが顕著に見られる為、洗剤を変えて、支援している。血圧の上下の起伏が強い場合は、朝夕2回測るなど記録し、全職員で共有している。状態を表出できない入居者には、顔色・食欲・水分量などの変化を察知し、訪問看護ステーションと連携して受診や要観察など職員間で共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を個別に解るようファイルし全職員がわかるようにしている。服薬チェックを行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便を薬に頼らず習慣化させるために、朝食後のトイレの際は、排便を促す声かけを行っている。体操、散歩などできるだけ支援している。便秘の際は、ほっとパックの使用や腹部マッサージなどの排便を支援している。水分補給や食材などに工夫している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎回の食後の歯磨きを声かけや介助・見守りを行っている。定期的な歯科受診の支援を行っている。就寝前は、義歯の洗浄の見守りや介助を、朝は、ポリデント使用の支援を個別に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考えてメニューを作成している。午前と午後にお茶の時間を設けて摂取できるよう支援している。食事量や水分量を記録している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は、手洗いとうがいを徹底している。マニュアルがある。手洗い場に掲示しており、部内研修も行っている。インフルエンザの接種を個別にできない入居者は、職員と一緒に受けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾・調理器具(包丁・まな板)は、毎食後熱湯消毒を行っている。食器やレンジ・オープン・レンジフードは、定期的に毎月行っている。生協や近所のスーパーを利用して新鮮な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門の扉にホームの看板がある。玄関までの道に花や植木のアプローチがあり、季節を感じ風や匂い、目で楽しむ事ができる。玄関にはチャイムがあり、家庭的な環境である。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節の花を飾ったり、見やすいカレンダーを入居者と作成して季節感がわかるように工夫している。風を感じ陽射しがいっぱい夏冬通してさわやかさを感じる空間があり、いつでも集える雰囲気がある。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の一角に応接セットがあり、新聞や雑誌を読むことができるように工夫している。廊下にベンチがあり、少人数でくつろいだおしゃべりや洗濯たみなどの作業を1人でも行ったり、疲労した時休憩できるよう工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具(たんす・仏壇)や衣類を使用している。居室で塗り絵をしたり、仏壇の花の水を換える、お供えをする、好きなマスコットを置く、好きな歌をカセットで聞くなど居心地のよい空間を作っている。物が片付けられず、洗濯物がたんすにしまえなくなってきた為、職員と一緒に片付けるよう支援している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	早朝窓を開けて空気の入替えをしている。冬は、乾燥しないよう加湿器を利用して、皮膚の乾燥や風邪を予防している。トイレなど窓のないところは、消臭剤を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ミニキッチン、車イスでも利用できるよう工夫している。入居者が自分らしく発揮できるようトイレ、浴室・脱衣室等にテスリを設置して工夫している。また、階段も外出時に利用している。歩行に難がある方、車イスの方は、エレベーターを利用して外出できるよう工夫している。体操を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	メニューやトイレの際の持ち物・ゴミ箱、入浴準備など紙に書いて1人1人に合わせた自立支援を行っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯物を干したり布団などを干し、日光、風を感じて季節を感じるような支援を行っている。		ベランダが狭く段差もあるが、洗濯物干しを助け合って外に出すなどしている。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員が入居者一人ひとりを理解しながら普通の暮らしが維持できるように支援している。

地域のボランティアの協力を得ながら趣味の活動(編み物、ギター、フラダンス、歌)でみんなが楽しむ機会を作っている。